

## 令和6年度第1回応援会議にて各委員からいただいた主なご意見とその対応状況について

区分	委員名	ご意見等	対応状況
経済状況	伊藤委員	・人口減少が進んでいる。中小企業の経営は年配の方の力で技術力を保っているが、行政がテコ入れをしなければ今後寂れていくだけになってしまう。市で面倒を見てほしい。	中小企業におけるDXの実現に向けた伴走支援や事業者が従業員向けに実施するリスクリングに係る経費の助成等、中小企業の持続的な成長を支援する施策を実施しています。 また、次世代に技術やノウハウを引き継ぐとともに事業承継を促進するため、アンケートにより事業承継を必要としている経営者の掘り起こしを行い、静岡県事業承継・引継ぎ支援センターと連携した支援を行っていきます。
まちのにぎわい ・人材育成	竹内副座長	・静岡市にはスポーツチームが6チームあるが、これらが使われていない。スポーツが持つ集客力を稼ぐ方向に使いたい。静岡愛につなげたい。 ・スポーツに関わるネットワークがあれば、若い世代や街に対して良い影響を与えられるのではないか。	多彩なエンターテインメントやプロスポーツを本市にもたらす多目的アリーナの整備の検討を進めています。 スポーツ交流課においては、「ホームタウン推進事業」として、くふうハヤテベンチャーズ静岡をはじめとしたホームタウンチームと連携し、スポーツ振興やキャリア教育など、多様な分野における事業を実施しています。 また、「SHIMIZU CROSS」を基盤としたネットワークの広がり期待するとともに、「SHIMIZU CROSS」と連携し取組を進めていきたいと考えています。
人材育成	八木委員	・若者がUターン・Iターンをする三大要素は①「静岡への誇りや愛着がある」②「地元の企業が社会にどういう価値を生み出す企業であるか知っている」③「(親や教員以外の)安心できる大人の存在」。③が現れるような経験はほとんどない。 ・静岡に魅力はある。若者がいかにしてそれを知っていくかが大事。	・若者が、親や教員以外に信頼できる大人に出会うことは将来の生き方に良い影響を与えるものと考えます。企業の価値や魅力を若者に伝える機会として、しぞーかおしごと愛ランドやファクハクの支援を行っており、これらについては、引き続きサポートしていきたいと考えています。 ・また、「高校生向けキャリア形成支援事業」では、インターンシップや社会人へのインタビューなどを通じて、地域で働く人々と直接触れ合い、まちへの愛着や仕事に対する思い、やりがい、誇りなどを伺うことで、地元で生き生きと働く大人と交流していきます。 ・また、その過程で学んだ成果の発表会を通じて、他校の生徒や他の社会人とも接し、共に学びを深めていきます。